

IoT・水素エネルギー利用基盤整備事業

秋田県仙北市（2018年度制定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

- ・人口24,292人(2021年7月)、高齢化率44.2%(2021年7月)
【人口増減率：-2.08%（2018年）→ -1.5%（2030年）】
- ・豊富な観光資源を有し、年間500万人が来訪するが通過型観光のため、経済波及効果が薄い
【観光宿泊者数：514,256人（2018年）→ 860,000人（2030年）】
- ・田沢湖の環境悪化、耕作放棄地の増加
【田沢湖のpH：5.4（2018年）→ 6.0（2030年）】
【耕作放棄地解消面積：3ha（2018年）→ 42ha（2030年）】

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

- ・次世代を担う人材育成として、ドローンを用いたプログラミング学習を市内の全小学校へ展開。
- ・水稻栽培におけるIoT機器の導入。ドローンによる生育管理および農産物運搬。
- ・温泉水からの水素生成。水素エネルギー利用に関する実証実験。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

- ▶ 田沢湖クニマス未来館における企画展示等により、環境学習の場を提供
- ▶ 汎用ドローンの空撮画像のオルソ化による災害時活用の実証実験
- ▶ ドローン導入による農業生産性の向上、耕作放棄地の解消
- ▶ 東北大学大学院環境科学研究科との連携による玉川温泉水を活用した水素生成実験
- ▶ 田沢湖畔の清掃活動、田沢湖の水質調査等

5. 取組推進の工夫

仙北市総合計画の主要事業とゴールを紐付け、KPI進捗管理を行っている。職員一人ひとりが担当業務とSDGsのゴールとの結びつきを理解し、KPIの達成を意識することで、取組の加速化につながっている。

6. 取組成果

- 田沢湖クニマス未来館において、田沢湖の環境が激変した歴史、山梨県西湖で見つかったクニマスの生態展示、未来への取り組み等の展示・企画展を行っている他、鳴き砂の復活のため湖畔の清掃活動を行う等、環境学習の場を積極的に提供している。
- ▶ 校外学習等として田沢湖クニマス未来館を利用した人数 889人（2023年目標達成率：44%）
- 近未来技術分野では、汎用ドローンを用いた災害時に役立つオルソ画像化の実証実験や農業用ドローン導入の支援や、AIによる配車サービスの新型モビリティの実装等、新しい技術を積極的に導入し、地域経済の活性化に取り組んでいる。
- ▶ 農業用ドローン導入件数 31件（2023年目標達成率：105%）
 - ▶ 近未来技術実証件数（累計） 9件（2023年目標達成率：140%）

7. 今後の展開策

- ▶ 東北大学大学院との連携による玉川温泉水からの水素生成、自動車の自動運転実証実験、AIによる配車サービス等、新しい技術を積極的に導入し、地域経済の活性化に取り組む。
- ▶ 田沢湖クニマス未来館を拠点とし、環境学習の場を提供するとともに、田沢湖の湖畔の清掃による鳴き砂の復活、田沢湖の水質調査等を大学等の連携により実施し、田沢湖の環境修復に向けた取組を推進する。
- ▶ 秋田県SDGsパートナーに登録している市内事業者と連携して啓蒙活動を行う。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

平成30年の未来都市選定後、仙北市、東松島市、飯豊町で「東北SDGs未来都市サミットを発足」。東北の選定自治体で情報を共有しながら連携し、積極的にSDGsを推進していくこととして、以来、毎年、東北のSDGs未来都市が加入している。第1回サミットが東松島市で開催され、第2回サミットは仙北市で開催された。令和6年度は福島県郡山市で開催。

SDGs未来都市進捗状況結果報告シート

2018年度選定

秋田県仙北市

2024年9月

SDGs未来都市計画名

仙北市SDGs未来都市計画

秋田県仙北市 第 2 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2021年～2023年

（１）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年	2030年（目標値）	達成度 （％）	第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	観光宿泊者数【8.9】	2019年 504,967 人	2023年 460,258 人	2030年 860,000 人	53.5%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第 2 次仙北市総合計画(改訂版)で進捗を確認していく。
2	近未来技術実証件数（累計）【9.5】	2019年 2 件	2023年 9 件	2030年 7 件	140.0%	第 2 次仙北市総合計画(改訂版)では、近未来技術実証・実装の推進を図る新たなKPIに見直す。
3	特定健診受診率【3.4】	2019年 35 %	2023年 40 %	2030年 45 %	88.9%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第 2 次仙北市総合計画(改訂版)で進捗を確認していく。
4	まちづくり満足度【11.3】	2019年 29 %	2023年 36 %	2030年 40 %	90.0%	目標達成に向けて順調に進捗しており、引き続き第 2 次仙北市総合計画(改訂版)ではKGIとして進捗を確認していく。
5	耕作放棄地面積【2.4】	2019年 34 ha	2023年 30 ha	2030年 25 ha	44.4%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第 2 次仙北市総合計画(改訂版)で進捗を確認していく。
6	水素生成量【7.a】	2019年 100 ℓ	2023年 0 ℓ	2030年 100,000 ℓ	0.0%	第 2 次仙北市総合計画(改訂版)では、自然・歴史的環境の保全と活用を図る新たなKPIに見直す。
7	田沢湖のpH【14.3】	2019年 5.4	2023年 5.3	2030年 6.0	-16.7%	第 2 次仙北市総合計画(改訂版)では、自然・歴史的環境の保全と活用を図る新たなKPIに見直す。

（２）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年 実績	2023年 目標値	達成度 （％）	第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	① 近未来技術による夢のあるまちづくり	S D G s の視点を重視した児童会・生徒会の取組件数	2019年 0 件	2023年 11 件	2023年 2 件	550.0%	目標が達成できており、第 2 次仙北市総合計画(改訂版)では更なる推進を図る。
2	① 近未来技術による夢のあるまちづくり	近未来技術実証件数（累計）	2019年 2 件	2023年 9 件	2023年 7 件	140.0%	第 2 次仙北市総合計画(改訂版)では、近未来技術実証・実装の推進を図る新たなKPIに見直す。
3	②「温泉×健康」による持続可能なまちづくり	疲労ストレス測定器利用件数（累計）	2019年 26,218 件	2023年 45,053 件	2023年 55,000 件	65.4%	第 2 次仙北市総合計画(改訂版)では、健康づくりの推進を図る新たなKPIに見直す。
4	②「温泉×健康」による持続可能なまちづくり	（再掲）観光宿泊者数	2019年 504,967 人	2023年 460,258 人	2023年 500,000 人	92.1%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第 2 次仙北市総合計画(改訂版)で進捗を確認していく。
5	③ 田沢湖再生の加速化	校外学習等として田沢湖クニマス未来館を利用した人数	2019年 1,173 人	2023年 889 人	2023年 2,000 人	44.5%	第 2 次仙北市総合計画(改訂版)では、自然・歴史的環境の保全と活用を図る新たなKPIに見直す。
6	④ 農業IoTの導入による農業生産性の向上と耕作放棄地の削減	農業用ドローン導入件数（累計）	2019年 9 件	2023年 31 件	2023年 30 件	104.8%	目標が達成できており、第 2 次仙北市総合計画(改訂版)では更なる推進を図る。
7	④ 農業IoTの導入による農業生産性の向上と耕作放棄地の削減	耕作放棄地面積	2019年 34 ha	2023年 30 ha	2023年 28 ha	66.7%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第 2 次仙北市総合計画(改訂版)で進捗を確認していく。
8	⑤ 水素エネルギーの活用による産業振興	（再掲）玉川温泉水からの水素生成量	2019年 100 ℓ	2023年 0 ℓ	2023年 1,000 ℓ	0.0%	第 2 次仙北市総合計画(改訂版)では、自然・歴史的環境の保全と活用を図る新たなKPIに見直す。

（３）第 2 期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容 ・近未来技術による夢のあるまちづくりは、近未来技術実証件数や S D G s の視点を重視した児童会・生徒会の取組件数というKPIが目標値を大幅に上回り、SDG s の機運醸成に大いに貢献した。 ・田沢湖再生の加速化や水素エネルギーの活用による産業振興は、計画策定時から技術開発や社会環境が大きく変化したこともあり、目標値を達成できなかった。エネルギー・環境再生に係る目標は引き続き維持しながら、より効果的で意味があるKPIを設定したい。 ●成果 過去 2 期に渡るSDG s 未来都市計画の推進により、仙北市の中にSDG s の理念が理解される機運が醸成された。これが、仙北市全体の経営方針である仙北市総合計画にSDG s が反映される礎となった。 ●課題 持続可能なまちづくりの重要性が高まる一方、既存のSDG s 未来都市計画で取り上げている事業やKPIは、仙北市が取り組む課題を部分的にしか捉えていなかった。そのため、仙北市の施策全体にSDG s の理念を取り込むため、より広範囲をカバーできる計画の策定が必要となってきた。 ●今後の展望 SDG s の取り組みを特別なものではなく、当然なものとして行うため、独立したSDG s 未来都市計画ではなく、仙北市の総合計画に統合し、仙北市を挙げて効果的・効率的に取り組んでいく。
--

（４）有識者からの取組に対する評価

・次世代を担う児童会・生徒会の取組件数が増加していることは持続的な取組の第一歩として高く評価する。他の取組も含め、持続的な地域の取組として発展していくよう、頑張ってもらいたい。 ・高齢化等が続く中での二地域居住、サテライトオフィス等の取組が可能かと推察する。
